

1. 目標

【現状】

- 山形県内では、高速道路や地域高規格道路の整備が進んでいるが、新設ICと市街地間のアクセス性に課題があり、高速道路等の利便性を向上させるためアクセス道路の整備が必要である。
- 工業製品や農水産品等の輸送車両を迅速に高速交通網に乗せるための道路整備が求められている。

【目標】

- 高速道路、高規格道路の整備に合わせて、IC・追加IC等へのアクセス道路を整備することで、高速道路等への利便性向上を図る。



▲大型車が多いが、幅員狭小により速度低下が発生している箇所

計画の成果目標	H30	R4
IC30分圏県内人口率※1	71%	96%
IC10分圏工業団地数※2	38箇所	56箇所

※1 IC30分圏県内人口率

県内在住者のうちICまで30分でアクセス可能な人口の割合

※2 IC10分圏工業団地数

工業団地のうちICまで10分でアクセス可能な団地数(全81箇所)

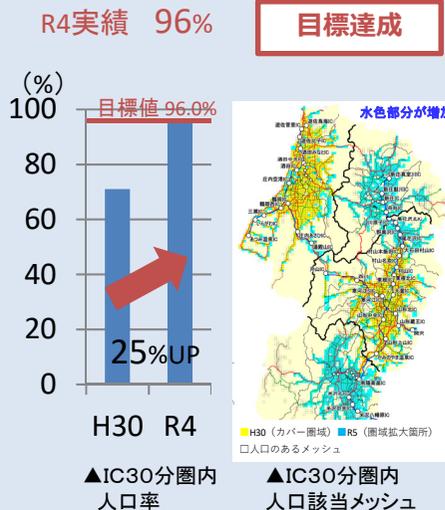
2. 事業の内容

- 事業の期間:平成30年度～令和4年度(5年間)
- 事業の主な内容
 - 基幹事業 : 道路のバイパス整備、拡幅等
 - 関連事業 : 道路整備に併せた交通安全施設整備等
 - 効果促進事業 : ー
- 事業実施主体 : 1県3市
- 全体事業費 : 3,909百万円

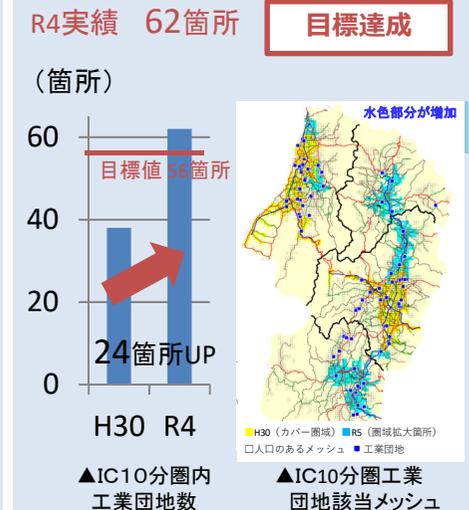
3. 事業による成果

- ◆基幹事業 県事業6箇所のうち6箇所完了※事例①～②
- ◆関連事業 県事業1箇所のうち1箇所完了
- ◆効果促進事業 ー

IC30分圏県内人口率



IC10分圏工業団地数



4. 評価と今後の対応

「IC30分圏県内人口率」および「IC10分圏工業団地数」については目標を達成し、着実な整備促進が図られた。

今後も引き続き高速道路等の整備スケジュールに合わせ、ICへのアクセス道路等の整備を図る必要がある。

5. 整備効果事例

【事例①】 バイパス整備 (山形県事業)

14-A001 主要地方道寒河江村山線 松沢工区 【東根北IC】



至 山形市

出典：国土地理院HP



➤ICがないため、東北中央道のストック効果を最大限発揮できない



➤地域活性化IC整備により、東根市内へのアクセス性向上、物流の効率化、緊急輸送時間の短縮

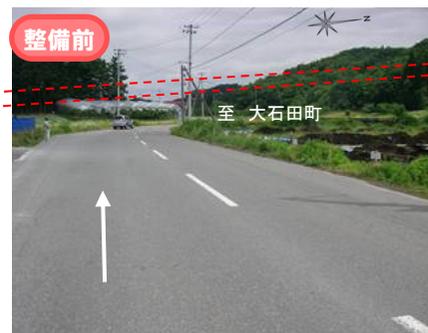
【事例②】 バイパス整備 (山形県事業)

14-A003 主要地方道新庄次年子村山線 名取工区 【村山名取IC】



至 山形市

出典：国土地理院HP



➤ICがないため、東北中央道のストック効果を最大限発揮できない



➤地域活性化IC整備により、大石田町内へのアクセス性向上、物流の効率化、緊急輸送時間の短縮